ふりがな　おじま　たけし

氏 名　**小島 健**

1. 学歴

2006 年 4 月 － 2010 年 3 月　創価大学経済学部経済学科
2010 年 4 月 － 2012 年 3 月　大阪大学大学院経済学研究科経済学専攻博士前期課程
2015 年 7 月　大阪大学大学院経済学研究科経済学専攻博士後期課程修了

2. 職歴･研究歴

2013 年 7 月 － 2014 年 3 月　大阪大学社会経済研究所　特任研究員
2014 年 1 月 － 2014 年 3 月　派遣研究員（スペイン･Market, Organization and Votes in Economics, MOVE）
2014 年 4 月 － 2014 年 9 月　京都文教大学　総合社会学部　非常勤講師
2014 年 7 月 － 2014 年 9 月　派遣研究員（台湾･Academia Sinica）
2014 年 10 月 － 2015 年 3 月　派遣研究員（スペイン･MOVE）
2015 年 3 月 － 2016 年 3 月　一橋大学大学院経済学研究科　特任助教
2016 年 4 月 － 現在　一橋大学大学院経済学研究科　講師

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

基礎マクロ経済学

C. 講義およびゼミナールの指導方針

基礎マクロ経済学では統計データの見方にも注意を払いながら，主として数学的な理論モデルを講義する。ここで取り扱う内容は，大きく短期･中期の理論と長期の理論に分けられる。短期･中期の理論では景気循環を取り扱い，長期の理論では経済の成長率の決定と推移について取り扱う。講義において，理論をなぜ用いるのか，理論が妥当であるのかについて，実験経済からのメッセージも紹介する。

4. 主な研究テーマ

行動経済学の知見を加味した動学一般均衡分析および消費者動学。

異時点間の意思決定を行う際，現在から近未来までの時間割引率が近未来から遠未来までの割引率よりも高いという性質，現在バイアス，がある。個人は時間を通じて我慢できなくなり，選好の逆転が生じるというこの性質は多くの実証データによって存在を確認されており，この性質によって説明される経済現象も存在する。私は世代重複モデルを用いて，現在バイアスを持つ異質な消費者，現在バイアスを認識している消費者と認識していない消費者，の一般均衡動学分析を行った。その結果，現在バイアスを認識していない個人が破産しやすくなる場合は，(i)現在バイアスが深刻になる時，(ii)長期の割引率が低い時，(iii)現在バイアスを認識している個人の人口が多い時であることを示した。

このように，行動経済学の知見を加えた動学分析が主な研究テーマである。

5. 研究活動

A.業績

（b）論文（査読つき論文には*）

* Takeshi Ojima,"General equilibrium dynamics with naïve and sophisticated hyperbolic consumers in an overlapping generations economy." *Economica*, vol. 85 : p. 281-304, 2018.
* 小島健,「ナイーブさによる自己破産」,『*行動経済学*』, 行動経済学会, vol. 5: p. 260-263, 第 6 回大会プロシーディングス, 2012.

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表（基調報告・招待講演には*）

[口頭発表]

Takeshi Ojima,"General equilibrium dynamics with naïve and sophisticated hyperbolic consumers in an overlapping generations economy," Asian Meeting of the Econometric Society, Academia Sinica, Taipei, Taiwan, (June 2014.)

Takeshi Ojima,"Myopic separability and general equilibrium with naive and sophisticated consumers",『日本経済学会』 2015 年度秋季大会上智大学, 2015 年 10 月

Takeshi Ojima,"General equilibrium dynamics with naïve and sophisticated hyperbolic consumers in an overlapping generations economy," Behavioural Economics and Financial Literacy, Universitat Oberta de Catalunya, Barcelona, Spain, (November 28, 2016.)

Takeshi Ojima,"Advertising and Tempting Bads,"『日本経済学会』2018 年度秋季大会学習院大学, 2018 年 10 月

（b）国内研究プロジェクト

科学研究費補助金基盤研究（B）「誘惑下のセルフ・コントロール, 消費選択, およびマクロ経済動学ー理論と実証」（No.J170100293）, 2017 – 2021 年度（研究分担者）。

C. 受賞

行動経済学会奨励賞受賞, 2012 年 12 月

大阪大学社会経済研究所・森口賞受賞, 2013 年 12 月

7. 学外活動

（b）所属学会および学術活動

日本経済学会

行動経済学会

（d）高校生向けの出張講義・模擬講義

出張講義（都立小山台高等学校） 2016 年 12 月 13 日

8. 官公庁各種審議会・委員会等における活動

裁判所書記官等試験委員会臨時委員（2016 年 12 月 – 現在）